

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	奈良 滋	地域企画課	企画・ゆざわおがち売込み班	澤橋 亨	0183-73-8191	湯沢雄勝のステキな「まち・ひと・しごと」情報発信	湯沢雄勝地域で生まれ育った高校生ならではの視点を活かした地元企業等を紹介する動画を制作し、制作過程を通じて生まれ育ったふるさとを再発見してもらう機会を提供する。	626,488	委託	湯沢雄勝地域で生まれ育った高校生ならではの視点を活かした地元企業等を紹介する動画を制作し、制作過程を通じて生まれ育ったふるさとを再発見してもらう機会を提供した。さらには高校生自身にとどまらず、学校関係者や保護者に対しても地元企業等の魅力を再認識させる契機とするため、完成動画のウェブ配信を行った。	県	管内在住の高校生、管内の企業	平成28年4月1日	各高校・企業協力の下、制作過程(脚本作成、撮影収録、編集・校正)を通じて、地元企業の魅力を発見し、伝える動画を制作・配信するとともに、マスコミ取材を通じて高校生自身のみなならず学校関係者や保護者に対して地元企業へ目を向けるきっかけをつくった。	参加高校・企業募集、高校と企業とのマッチング、制作過程における作業(脚本作成、撮影収録、編集校正、企業との連絡調整)など、完成に至るまで多岐に渡る調整が求められた。 若者定着に向けた高校生による地元企業の魅力発掘方法としては、数多くの企業に触れることが可能な企業展示説明会への移行・充実も検討していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	奈良 滋	地域企画課	企画・ゆざわおがち売込み班	佐々木 芳春	0183-73-8191	“ようこそ学びと健康の郷へ”地場産業体験事業	県内小中学校の教員及び大学教員を対象に、管内の伝統産業を体験するふるさと教育体験研修を行う。伝統産業への理解を深めるとともに、“健康寿命”の側面も加え、新たな雄勝ファンを取り込み、協力企業・団体等へ新たな視点を取り入れた取組を支援し、交流人口拡大を目指す。	423,467	直営	県内小中学校教職員及び大学教職員自身に、伝統産業への理解を深めてもらい、各校課外授業先として選定してもらうため、稲庭うどんや川連漆器製作体験を組み込んだふるさと体験研修を行った。また研修内では、地場産野菜活用の健康ランチも紹介し、健康寿命の面でもアプローチを行った。また、アンケート実施し、その結果を関係機関にフィードバックし、新たな視点を取り入れるための支援を行った。	県	県内大学生等及び小中学校教職員	平成28年4月1日	地場産業関連機関が連携することで相乗効果を示せたことにより、各機関同士の積極的な連携への気運を醸成できた。参加者には、湯沢雄勝の地場産業の魅力を伝えられ、アンケートでも好結果を得られた。	市町村、関係機関等が連携し、単品ではなく複数の地場産業等を絡めたPR活動が必要とされる。また、外国人の受入体制の構築は今後必須となる。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
福祉環境部	小裕 真吾	健康・予防課	健康・予防班	本田 由喜子	0183-73-6155	地域歯科口腔保健推進事業	地域の健康づくり活動実践者から歯科口腔保健に関する知識や技術を地域住民に啓発普及してもらうことにより地域の歯科口腔の健康度の底上げを図る。そのための研修を活動実践者に実施する。	455,512	直営	・地域口腔ケア研修会を健康づくり活動実施団体や施設職員、地域住民を対象に開催した。 ・啓発普及をしていただく健康づくり活動実践者を対象に、地域口腔ケア教室を6回開催した。	県	地域住民	平成28年4月1日	地域口腔ケア教室受講者(77人)より啓発普及への協力を得た。活動実績報告(回収率51.9%)によると1人当たり伝達人数は前年度より増加し3~5人が48%、6人~9人が28%、10人以上が10%だった。	健康づくり活動実践者による地域住民向け普及啓発活動を継続すると共に、事業所健康づくり担当者に対象を拡大し、職種に向けた啓発普及を図る。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
福祉環境部	小裕 真吾	企画福祉課	調整・障害者班	関宏 明	0183-73-6155	入浴事故防止ネットワーク事業	管内で発生している入浴事故を防止するため、ネットワーク機関と協働して事故発生状況の分析を行うとともに予防法等の情報を共有し、住民に対する普及啓発を行う。また、本事業に継続的に取り組むことによりネットワーク機関の自主活動の強化を図る。	116,969	直営	・入浴事故発生状況調査 ・ネットワーク会議の開催 ・入浴事故防止月間の取り組み(街頭キャンペーン、市町村広報掲載、ラジオによる広報等) ・県庁出前講座 ・予防通信の発行	県	地域住民	平成28年4月1日	ネットワークでの取り組みの他、構成団体独自の行事・イベントでも入浴事故防止のリーフレットを配る等の啓発を行っているため、事故の発生状況や安全な入浴法を地域住民が知る機会が増えてきており、周知は進んでいると思われる。	若年層の事故や夏季の事故が増加しており、対象を高齢者に限定せず幅広い世代へ啓発すると共に、取り組み時期も寒くなる前から進める等手法を工夫する必要がある。また、性別ではこれまで男性が女性の2倍以上であったが28年は男女差が僅差になっており、事故発生条件の傾向を分析し今後の取り組みに役立てたい。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
農林部	小松貢一	農業振興普及課	担い手・経営班	繁野 毅	0183-73-5180	複合経営発展支援事業	米価下落により水稻を主体とする農家経営は瀬戸際に立たされており、地域経済に与える影響も懸念される。県ではコメ依存から脱却し複合型経営の転換による農業経営の強化を進めており県事業の推進と合わせて、雄勝地域の特性を活かした複合経営の確立が緊急となっている。	842,572	直営	複合経営アドバイザーの委嘱、視察研修会の開催などにより複合経営化を誘導。	県	管内農業者	平成28年4月1日	複合経営研修で優良事例や最新のハウス、設備を視察した結果、ネットワーク型団地の形成に繋がった。 新規栽培者の技術習得、意欲向上に繋がった。	新規就農者の確保。若手農業者の更なる技術経営のレベルアップ。複合経営モデルとしてネットワークメガ団地参入者の経営安定。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
農林部	小松貢一	農業振興普及課	担い手・経営班	工藤寛子	0183-73-5180	雄勝の新商品拡大事業	地域の資源を活用した新たな商品開発と販路拡大の取組を支援することで、地域の農業経営体のさらなる収益性の向上や雇用拡大を図り、地域活性化に貢献する。	593,001	直営	管内の農業者で組織する団体等を対象に、新たな農産加工商品の開発、製造販売、農産加工品の機械・施設の整備等について支援を行った。	県	管内農業者	平成28年4月1日	申請者2者がともに秋田県種苗交換会に出品し、3等賞及び秋田県知事賞・全国農業協同組合中央会長賞を受賞した。FMゆーとびあで紹介、異業種交流会に出展するなどして好評を得た。	商品完成後の販促活動に関する支援。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	奈良 滋	地域企画課	企画・ゆざわおがち売込み班	松田千賀子	0183-73-8191	市町村との協働による広域観光の推進事業	観光入込客数・宿泊客数は、東日本大震災の影響による落ち込みから未だ回復できていない。このため、観光地としての湯沢雄勝の知名度を向上させ、入込客数等の回復・拡大を図る必要がある。	2,955,534	負担金	地域振興局、湯沢市、羽後町、東成瀬村で組織する「湯沢雄勝広域観光推進機構」において、仙台圏等に向けた地域の観光と物産をPRした。 (1)広域観光情報の発信(新聞広告やWebの活用) (2)観光物産キャンペーン(「湯沢雄勝広域観光物産展」への参画、仙台市勾当台公園) (3)観光資源のブラッシュアップ(観光客誘致の取組や秋田県市町村未来づくり協働プログラムの効果を高める取組などへの支援)	湯沢雄勝広域観光推進機構	主に仙台圏や県内からの観光客	平成28年4月1日	市町村との協働実施により、スケールメリットを活かし、効果的なPRをすることが出来た。	冬場の入り込み増が課題。行事のみならず、通年観光に結びつくような観光資源のブラッシュアップを行い、「湯沢雄勝」の魅力をより積極的にPRする。また、新規顧客の獲得を目指すし、WEB等の媒体を積極的に活用していく。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									
総務企画部	奈良 滋	地域企画課	企画・ゆざわおがち売込み班	神馬敬直	0183-73-8191	県際・県南地域連携等による売込み強化事業	仙台圏から県内一近い地域特性を活かし、管内はもとより、隣県等と一体となった売込み強化を図る必要がある。	1,702,271	直営	県際連携(山形県最上・宮城県大崎)及び県南地域振興局連携(仙北・平鹿)により広域エリアとしての売込みを行った。 (1)県際連携 ①東北のへそ観光まつり(9/13～14 仙台市勾当台公園) ②東北のへそ新名物発見スタンプラリー (2)県南地域振興局連携 ①仙台卸町ふれあい市(4月、10月) ②TIC東京観光物産展(3月)	県	主に仙台圏や県内からの観光客	平成28年4月1日	隣県や他地域振興局との連携により、それぞれの地域の特色を活かしつつ、広域的な周遊エリアとしての魅力向上に結びつけることができた。	山形・宮城・岩手と隣接し、さらに仙台に一番近い地の利を活かして、広域エリア内の交流人口拡大に結びつくような取組を今後も積極的に行う。
						平成28年4月1日～平成29年3月31日									